

■改題にあたって 前川知大 (2015.2.28)

「プランクトンの踊り場」は第14回鶴屋南北戯曲賞をいただいた戯曲である。プランクトンの語源は「漂うもの」という意味のギリシャ語で、そこに「現実に存在しながらも五感をすり抜けていく儚いもの」というイメージを見てとった私は、そのようなものがふと姿を現す「場所」として「プランクトンの踊り場」というタイトルをつけた。

悪くない。

が、観終わった人に「何故にこのタイトル？」と聞かれることが少なからずあった。

上記の説明をしても、「ふーん」とすっきりしない顔をされるだけである。

何故か。

理由ははっきりしている。

そのような物語ではないからである！

いや、「不思議なことが起こる場所」についての話だから間違ってるわけではない。

ざっくりとしたイメージでは作品と結びついている。これはこれでいい、騒ぎ立てるような問題ではない……

正直に言おう。

タイトルを先につけてしまったのだ。

中身を作っていく内に、プランクトンな感じではないが面白くなってるからまあいいか、となった。新作公演ではよくあることである。申し訳ない、開き直っている。

しかしそんな作品に限って、素晴らしい戯曲賞をいただいてしまうものなのだ。

トロフィーにもしっかりと「プランクトンの踊り場」と刻印されている。

さて、再演の時はどうしたものか。

作者の私としては、タイトルを変えたい。だって正直内容とあんまり関係ない、いやいや、より物語に合ったふさわしいタイトルにしたいのだ。

というわけで、せっかく受賞作として皆様に覚えてもらった「プランクトンの踊り場」だが、

改題することにした。

「聖地X」

X (エックス) は未知数のX。未知なる聖地。

奇妙な力が宿る土地、そこが神聖な場所となるかは、訪れる人の想像力次第。

ドッペルゲンガーの出現から、その土地の秘密に迫っていく SF 推理劇。

「聖地X」としてブラッシュアップした「プランクトンの踊り場」を、どうぞお楽しみに。